

2/14 「身近な疑問を数学の目で見つめる」自由研究発表会に参加

2月14日（土）、「奈良県小・中学生自由研究発表の集い」が開催され、本校1年生の小橋さんが参加しました。小橋さんの発表テーマは、「野球は投手力、打撃力のどちらが必要！？というもの。日頃の生活の中で感じた疑問を、数学的な視点から分析・探究し、論理的なレポートにまとめ上げました。



会場では、他にもユニークな視点の発表が数多く見られました。

- ・小学生の部：「もし地球が立方体だったら」「ひつじは何匹数えるとねむくなる！？」
- ・中学生の部：「あなたの思いやりは何グラム？」「10年後の消費税」

特に印象的だったのは、「あなたの思いやりは何グラム？」という研究です。食卓で最後に少しだけ残ったおかずを見て、お母さんが言った「遠慮のかたまりが残っているよ」という一言がきっかけだったそうです。

この「遠慮のかたまり（最後に残る量）」を数値化することで、目に見えない「思いやり」の量を表現できるのではないかと考え、【元の量】と【残った量】の比率を調査されました。

- ・研究の結果：「遠慮のかたまり」は全体の約7%である。
- ・おもしろい発見：7%を減らして提供しても、またその中の「遠慮のかたまり」が残ってしまう。

最終的にこの生徒は、「思いやりは重さ（グラム）で測るのではなく、心で感じる方が素敵だ」という、数学的な分析を超えた温かい結論にたどり着いたようです。

今回の発表会を通じて、生徒たちは「正解のない問い」に対して、自分なりのアプローチで答えを探す楽しさを学んだことでしょう。

これからも、日常のふとした疑問を大切に、「なぜだろう？」と探究し続ける心を育てていってほしいと願っています。